

厚生委員会 研修報告

平成25年5月7日～9日

湖南市は平成24年4月に保健・福祉・医療・教育及び就労の関係機関の横の連携による支援と、個別の指導計画による縦の連携による支援を提供する「湖南市発達支援システム」が構築された。

支援体制を統括する発達支援室を健康福祉部に、発達支援センターの専門的支援の場を市内3小学校に置き、室長をはじめ保健師、相談員、保育士など嘱託、臨時職員を入れて10人で構成されている。センターは、発達相談、療育相談、言葉の教室を包括する組織で乳幼児健診や幼稚・保育園で気づきから何らかの支援が必要なのかなどの発達相談事業を行っている。当然人件費は必要であるが、ハード面の費用はかかっていない。



南丹市のすこやか子育て医療費助成制度は、平成18年1月1日に4町が合併し、旧4町の「次世代育成支援行動計画」が旧4町の給付を維持することで平成19年3月に策定された。南丹市子育て支援単独事業「子宝祝金は出生児一人につき5万円」「子育て手当は第一子2千円、第二子3千円、第三子以降5千円」「入学祝金は小学校時3万円、中学校時4万円」すべての支給に所得制限は設けていない。要件としては、現に居住していること。

滋賀県湖南市 人口54,950人
京都府南丹市 人口33,987人

先進地に学ぶ ～研修レポート～

東京都清瀬市 人口74,064人
栃木県鹿沼市 人口100,590人
東京都台東区 人口186,611人



総務文教委員会 研修報告

平成25年5月14日～16日

清瀬市では「読書の清瀬・スポーツの清瀬」を旨とし教育施策を「当たり前のことを当たり前にできる教育」を基本におき事業が展開されている。学力を高めるための市独自のテストがあり、また子どもの運動能力の現状を把握し、分析もしている。各学校で様々な取り組みが行われ「家庭教育の手引き」を作成しているところもある。

鹿沼市では図書館運営について研修を行った。平成23年度まで除籍本を無償リサイクルとしていたが近隣の市で有償での除籍本の配布を開始したことから今年2月鹿沼市でも実施。今後の課題として一定の準備期間と労力を要すること。また、定期的な開催には除籍本の確保が必要であるということであった。

台東区ではスーパーティーチャールの研修を行った。この事業は2か年事業で台東区の学力・体力向上施策を総合的に推進するために指導力の高い教員・保育士を育成することを目的としている。特徴として保育園、学童保育を教育委員会が担当し、幼児の教育や保育を一元的に対応しているとのことである。